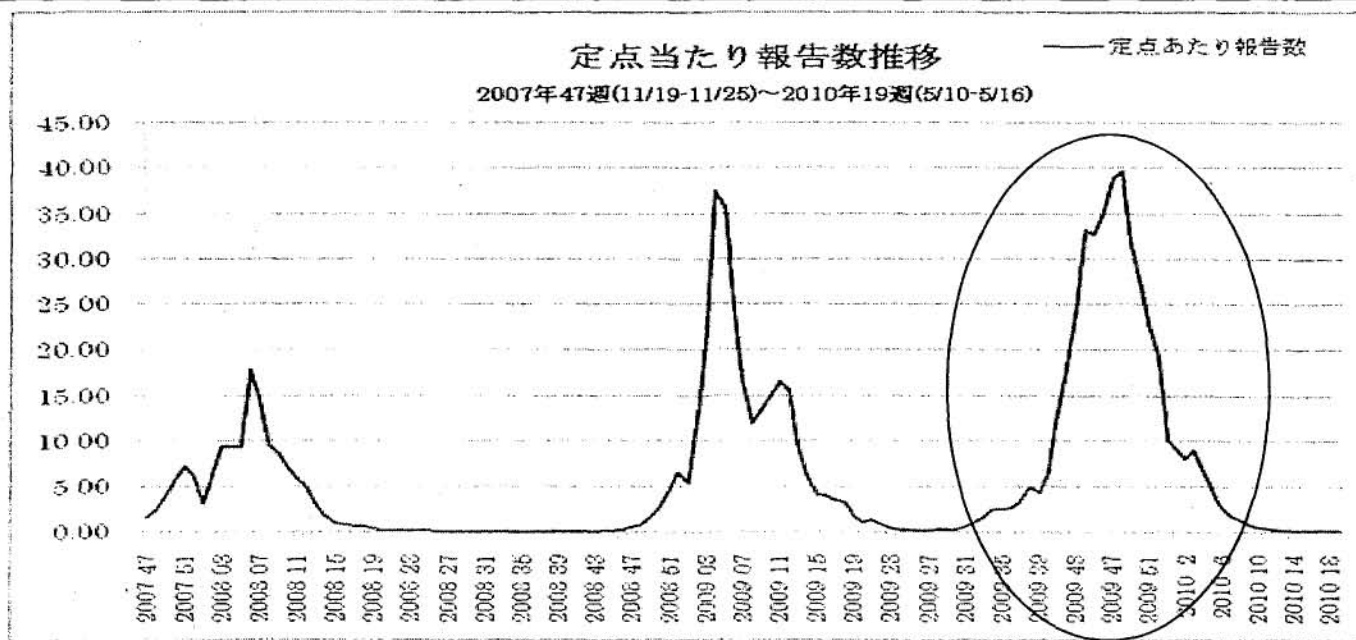


インフルエンザ定点あたり患者報告数

日本

(2007年47週 - 2010年第18週現在)



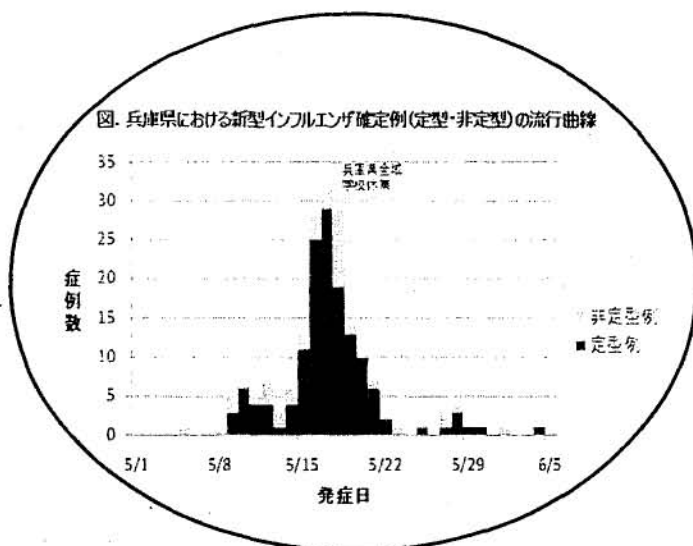
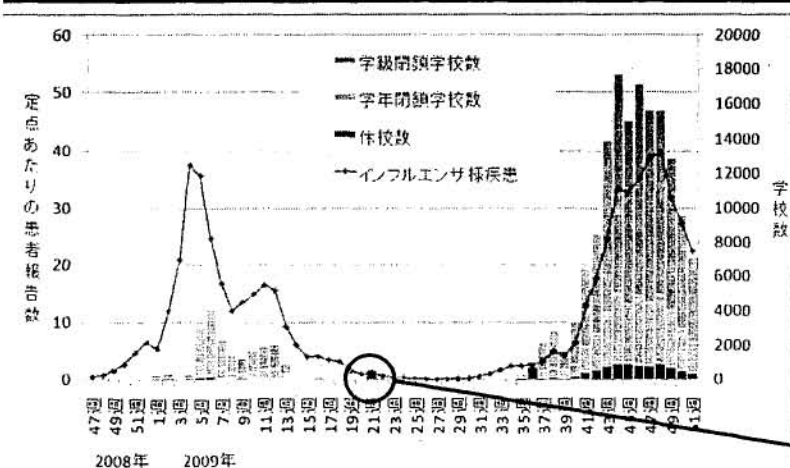
World Health Organization
www.who.int



World Health Organization

学校・学年・学級閉鎖と流行パターン

日本



World Health Organization
www.who.int



World Health Organization

4. 保健システムへの負荷



保健システムへの負荷

- 外来患者受診率が高い
 - ニュージーランドでは平年の3倍
 - 「心配受診」の増加？
- 多くの国で入院患者があふれる、というほどではなかった
 - 特定の年齢群で多い
- 集中治療室: 重症呼吸切迫症候群 (ARDS) → 人材、物資の不足
 - 平年の4x – 15x の外来患者数が4週から2カ月続く(タイ)
 - 在室期間が長い

5. インフルエンザウイルスに関する知見



パンデミックインフルエンザ (H1N1) 2009 ウイルスの特徴

- 抗原性、遺伝子ともに A/California/7/2009 (WHOワクチン推奨株)に類似
- 遺伝子変異も稀
 - ・ D222G 変異が散発的に <1.8% (死亡例の7%)報告されている
- ノイラミニダーゼ阻害薬に感受性を維持している (oseltamivir, zanamivir)
 - アマンタジン、リマンタジンには耐性
 - 散発的にオセルタミビル耐性: 289/25,500+ (2010年5月まで)
 - ・ 全ての耐性ウイルスは H275Y 変異を有する

インフルエンザウイルス 分布状況 (2010年5月2-8日現在)

Percentage of respiratory specimens that tested positive for influenza

Status as of week 18
02-08 May 2010



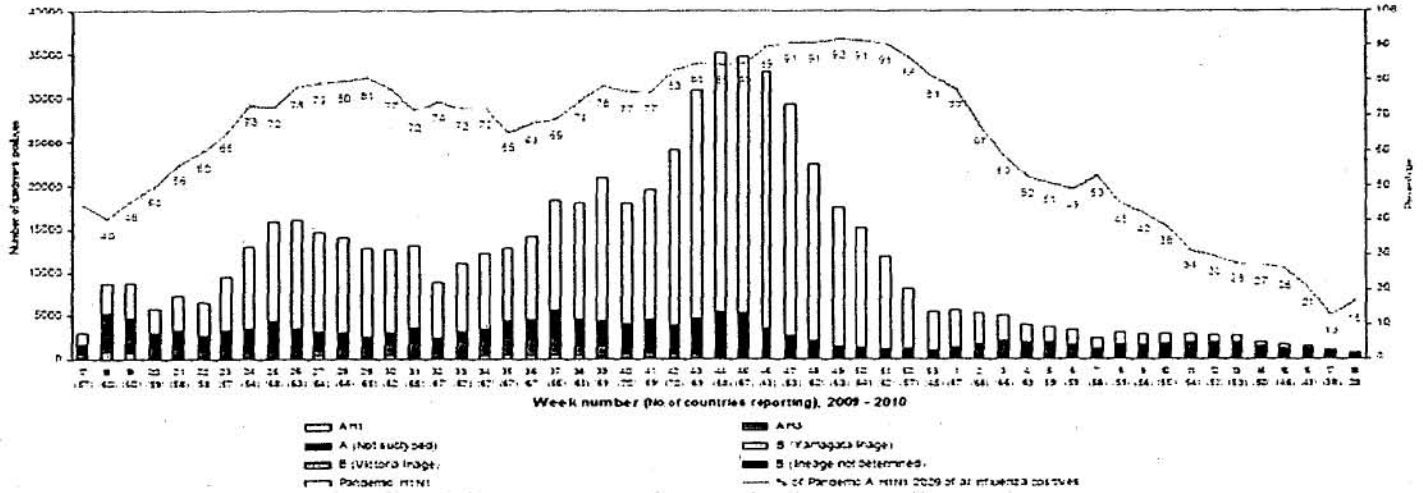
インフルエンザウイルス 現在の状況 (2009年5月17週の報告)

- インフルエンザウイルス陽性:1077 (陽性の割合11%)
 - パンデミックインフルエンザA(H1N1) 2009 : 137 (約13%),
 - 季節性 A (H1) : 5 (約0.5%),
 - A (H3) : 22 (約2%),
 - A (not sub-typed) : 30 (約3%),
 - インフルエンザ B 型: 833 (約77%).



インフルエンザウイルス 循環状況 (2009年4月19日-2010年5月8日)

Global circulation of influenza viruses
Number of specimens positives for influenza by subtypes
week 17 (2009) - 18 (2010) from 19 April 2009 to 8 May 2010

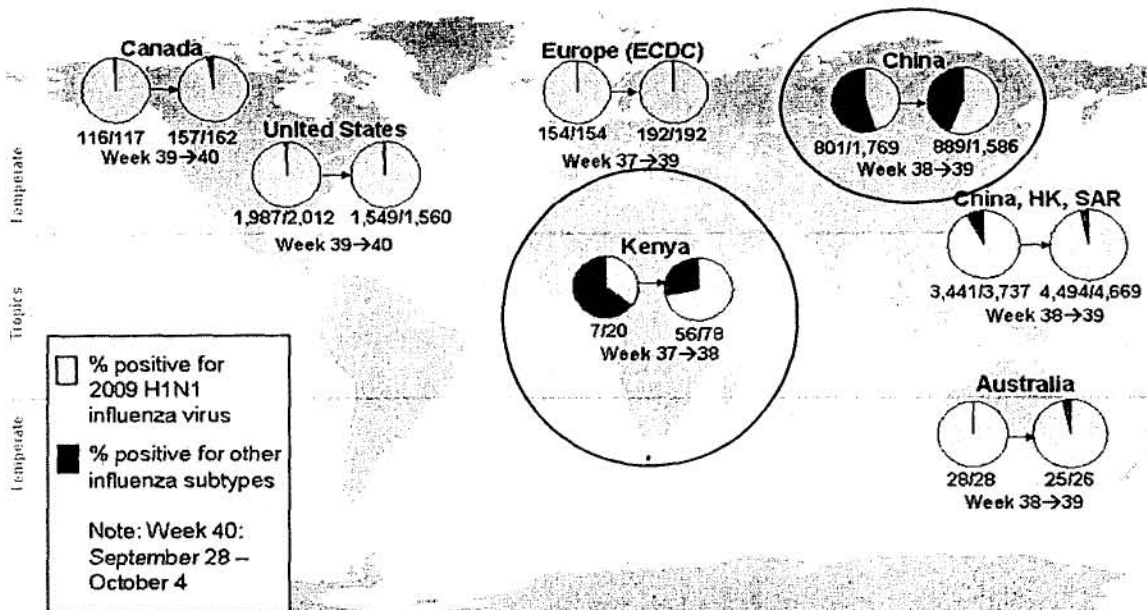


Data source: FluNet, Global Influenza Surveillance Network (GISN)

Web
http://www.who.int/disease/surveillance/epidemiological/2010_05_21.pdf



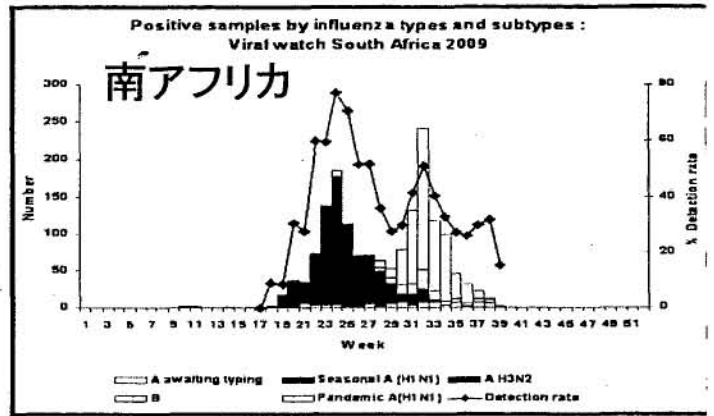
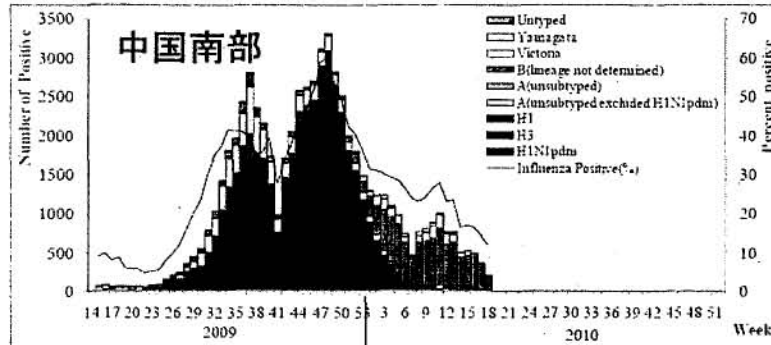
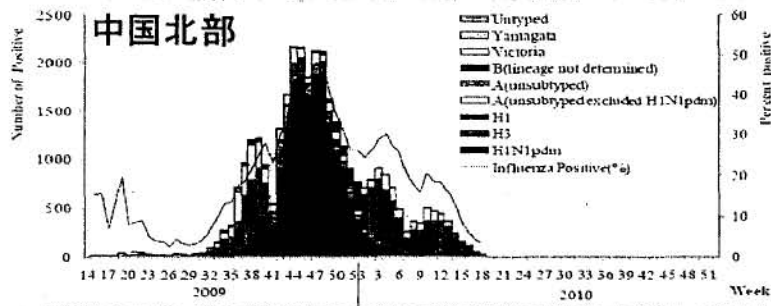
パンデミックインフルエンザと季節性インフルエンザの同時発生 2009年 37-40週



Adapted from Source: <http://www.cdc.gov/h1n1flu/updates/international/>



インフルエンザウイルスの循環状況 (2009-2010年)



<http://www.who.org/en/eng/Show.php?contentid=315>
<http://www.teamosa.co.za/iss2009/presentations/10/McA7Dec2009.pdf>



6. 学校閉鎖と水際対策

